

# 出産をひかえた乳牛はこうして飼おう！

## 乳牛の周産期疾病低減を目指した乾乳期飼養管理法

### 概要 Abstract

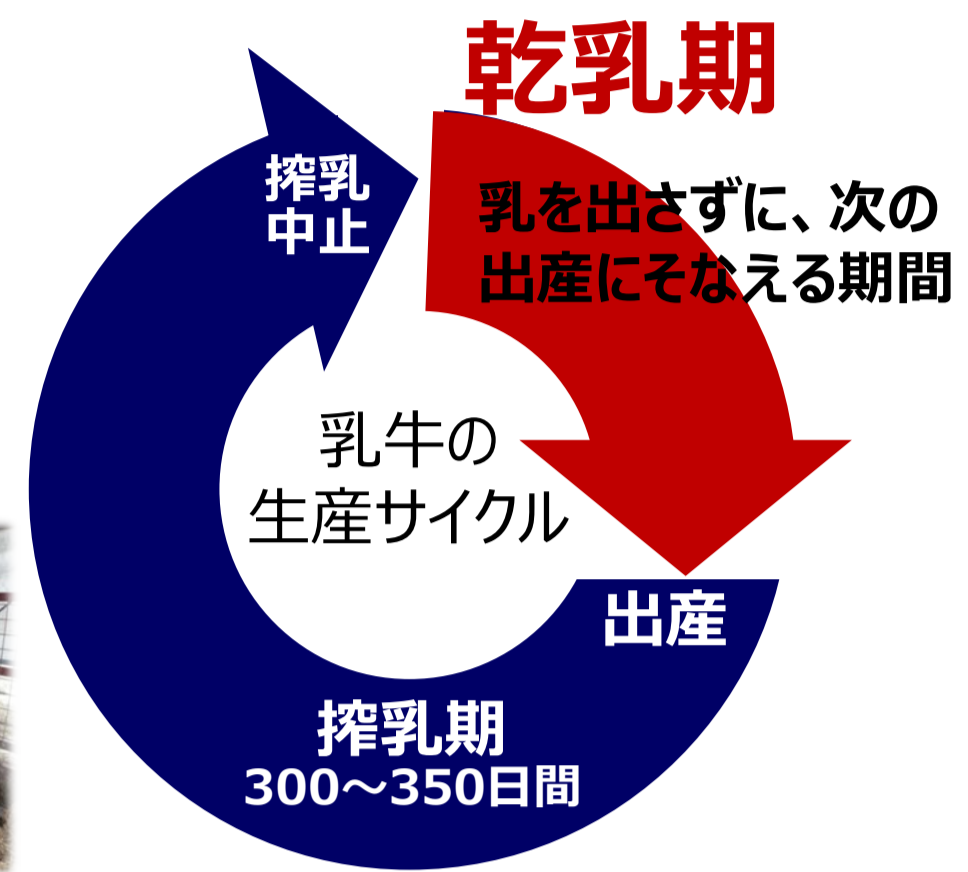
乳牛は周産期（出産～出産後1ヶ月以内）に疾病が発生しやすい

**周産期疾病**の発生は年間延べ**19万頭**、被害額は**40億円以上**（H28, 北海道）

周産期疾病のリスク要因は**乾乳期（出産前）の太りすぎと飼料摂取量の低下**

【問題点】**乾乳期の飼養管理の基準が無い**

【解決策】**乾乳期の飼養管理指針（①期間、②飼料、③施設）を提示**



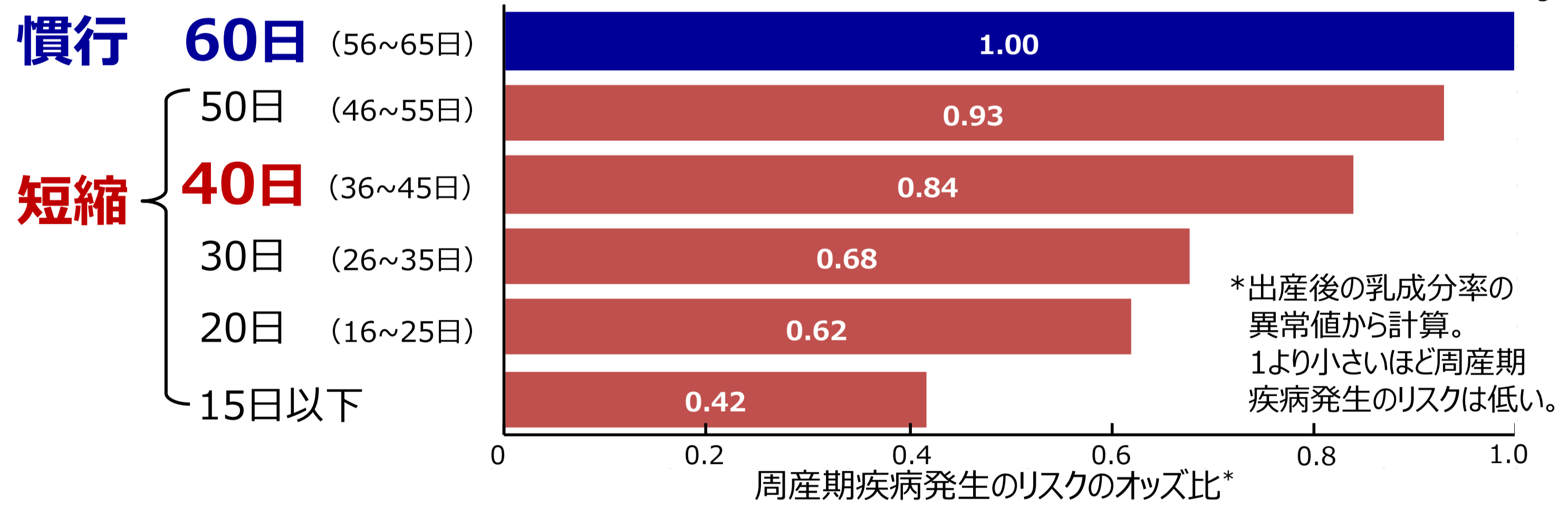
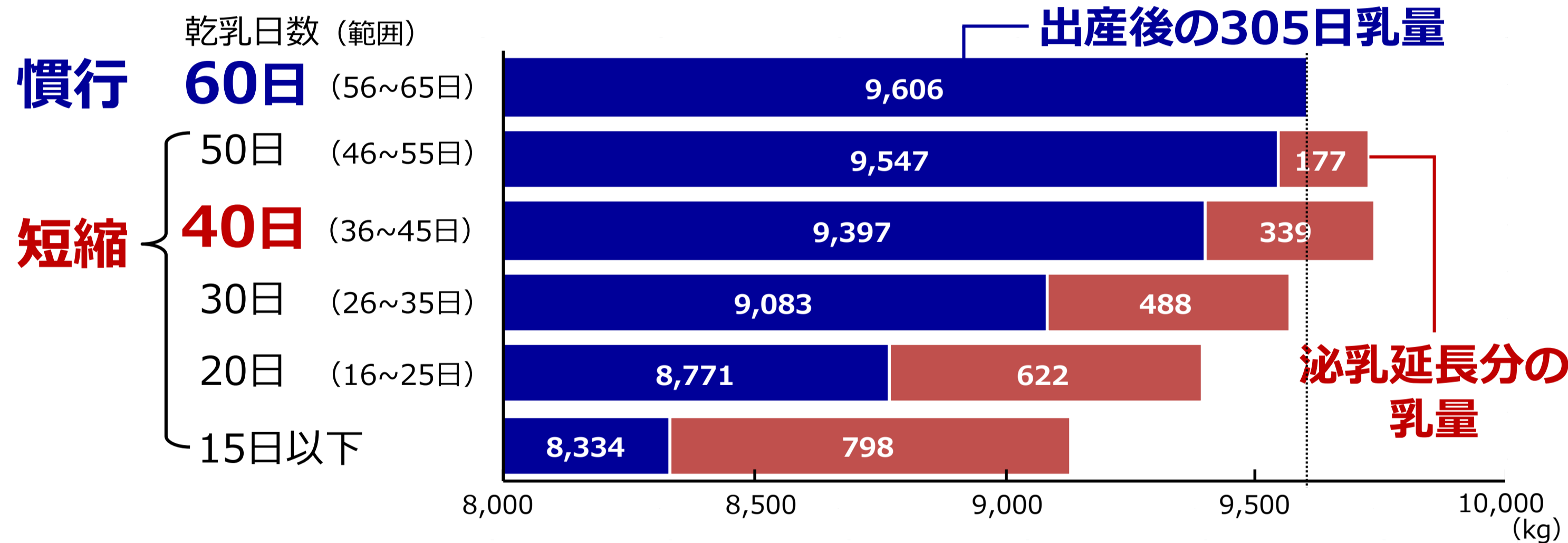
### 成果 Results

#### ① 太らせない

✓太りやすい期間を短くする

乾乳日数：これまで**60日間**→これから**40日間**

乳量を減らすことなく、疾病のリスクが低減



調査対象：H26年1月～H28年9月の全道牛群検定成績(約47万頭分)

#### ② 太らせない

✓乾乳日数を短くし、飼料のエネルギー含量を下げる

TDN含量：これまで**68%**→これから**62%**

摂取量を確保しつつ、太りにくい

TDN (可消化養分総量) 飼料のエネルギー価を示す単位。飼料のタンパク質、脂肪、繊維および可溶性無窒素素物の含量と消化率から算出する。

乾乳日数 (日)	TDN 含量 <sup>1</sup> (%乾物)	乾物 摂取量 <sup>2</sup> (%体重)	太った牛の 割合 <sup>3</sup> (%)
60	68	1.8	33
40	62	1.8	11



草を十分に食べさせる

調査対象：酪農試験場 (延べ57頭分)

### 普及 Dissemination

普及対象は全道の酪農家

**乾乳期飼養管理マニュアル**の普及 → **被害額の低減・生乳生産量の増加**  
＜乳牛の長命連産性の達成へ＞

#### ③ 摂取量を低下させない

✓ストレスの少ない環境で飼う



十分な面積：**13m<sup>2</sup>/頭以上**

快適な寝床：敷料は**厚さ15cm以上**



出産する場所が重要：

乾乳施設からの**移動は最小限**

出産場所は**放し飼い形式**

調査対象：根室管内酪農場23戸，酪農試験場，アンケート調査 (2,290戸)

### 乾乳期管理と疾病発生

乾乳期管理が適切なら  
出産後の疾病や死亡が少ない

乾乳期管理	太った牛の割合	摂取量不足牛の割合	疾病発生率 <sup>1,2</sup>	死亡率 <sup>1</sup>
不適	26%	21%	10.9%	5.5%
適切	12%	12%	3.1%	0.0%

<sup>1</sup> 第四胃変位治療率、<sup>2</sup> 出産後56日以内  
調査対象：根室管内酪農場2戸の比較

### 連絡先 Contact

酪農試験場  
酪農研究部 乳牛グループ  
0153-72-2004  
konsen-agri@hro.or.jp